



2019 年度災害支援者養成研修会 開催要項

目 的

大規模な災害が頻発するなか、災害時のソーシャルワークの実践が体系化されつつあります。北海道では現在、災害時の福祉支援体制の整備が進められており、来たる大規模災害時に各専門職団体がいかに持ちうる強みを発揮できるかが問われています。本研修会では、災害ソーシャルワークの実践現場について学ぶとともに、胆振東部地震を受けて当会が展開した支援活動のふりかえりと検証を行うことを通して、福祉専門職の職能団体としての今後の災害支援活動の在り方や方針を探ります。

日 時 2020年3月7日(土) 午前の部：10時45分～12時00分（一般公開）
午後の部：13時15分～16時30分

会 場 苫小牧市文化交流センター（アイビー・プラザ） 講習室

主 催 公益社団法人 北海道社会福祉士会（災害対策委員会）

プログラム [午前] 一般無料公開「来たる大規模災害に備えて」

[午後] 福祉専門職等対象「災害ソーシャルワークの実践現場に関わって」他

※プログラムの詳細は裏面をご参照ください。

参加定員 [午前] 50名程度 [午後] 30名程度

参加費 会員：1,000円 非会員：2,000円 ※午後の部のみ参加費が発生します。

申込み 参加費は前払いです。別紙申込書に払込票控えを貼付し、必要事項を記入のうえ、
2月28日(金)までに事務局に郵送かFAXにてお申込みください。
一度振り込まれた参加費は返金致しませんのでご了承ください。

振込先 郵便口座 02720-3-64711
口座名義 公益社団法人北海道社会福祉士会

(他金融機関からの振込用口座)

ゆうちょ銀行 二七九(ニナナキュウ) 店(279) 当座 0064711

※郵便局に備え付けの「青色 振込取扱票」(振込手数料各自負担)をご使用ください。

※通信欄に「災害支援研修会」とお書きください。

<自然災害による中止>

自然災害発生等により開催を見合わせる場合がございます。やむを得ず研修会を中止する場合は、参加申込書に記載いただく当日連絡先に中止の連絡を致します。

<お問合せ先> 公益社団法人北海道社会福祉士会 事務局 (月曜日～金曜日 9:30～16:30)
〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目 かでる 2.7 4階
TEL 011-213-1313 FAX 011-213-1314 E-mail info@hokkaido-csw.or.jp



北海道社会福祉士会ではLINE@を活用して情報を配信しております。
ぜひご登録ください！
登録は左のQRコードからどうぞ。

【プログラム】

<午前の部> ※どなたでもご参加いただけます（参加無料）

10：30～	受 付
10：45～10：50	開 会・主催者挨拶・オリエンテーション
10：50～11：50	報 告「来たる大規模災害に備えて」 報告者：北海道社会福祉士会 災害対策委員会 石黒建一 職能団体による災害支援活動を経て、専門職（生活支援相談員）としての相談支援、両方の立場で被災現場に赴いている当会会員が、現地の今とこれからについてレポートします。
11：50～12：00	質疑応答

<午後の部> ※事前申込みが必要となります。

13：00～14：30	講 義「災害ソーシャルワークの実践現場に関わって ～伴走する社会学者の視点から～」 講師：定池祐季 氏（東北大学災害科学国際研究所助教） 講師は胆振東部地震発災前から防災教育活動で厚真町に関わりを持ち、今も継続して支援を続けています。北海道南西沖地震で被災した経験もある講師の視点からお話をいただき、被災地の移り変わりやニーズの変化をふまえて、社会福祉士の職能団体として今後の支援活動を考える手掛かりとします。
14：30～14：45	休 憩
14：45～16：25 ～途中休憩～	課題検討「被災現場でソーシャルワーカーが果たす役割」 アドバイザー：定池祐季 氏 進行：災害対策委員会 北海道では現在、災害時の福祉支援体制の整備が進められています。ここでは、来たる大規模災害時に、当会が福祉専門職チームの一員としてどのような役割を果たすことができるかを検討します。 その前提として、胆振東部地震にかかる当会の災害支援活動について振り返る機会とします。
16：25～16：30	閉 会

（講師情報）



さだいけ ゆ き
定池祐季 氏（東北大学災害科学国際研究所 助教）

北海道大学大学院文学研究科博士後期課程修了、博士（文学）。北海道南西沖地震（1993年）を奥尻島で経験し、災害研究を志す。専門は災害社会学、地域社会学、防災教育。奥尻島、有珠山周辺地域、八重山地域などをフィールドに災害文化、災害伝承、防災教育に関する研究に取り組んでいる。

また、防災教育活動のほか、北海道南西沖地震の語り部的活動、復興プロセスに関する情報提供なども行っている。



※講師を取り上げた記事（河北新報）もご参照ください。

https://www.kahoku.co.jp/tohokunews/201909/20190906_13015.html

